

HYUGA PRIMARY CARE

The background of the slide features a pair of hands cupping a stylized house icon. The house is light blue with a grid pattern on its roof. Surrounding the house are several dark blue starburst or spark icons. The entire scene is set against a dark blue gradient background.

2025年3月期 第3四半期決算 に関するFAQ

HYUGA PRIMARY CARE株式会社
7133 東証グロース市場
2025年2月

Q. 第3四半期の実績についてどう評価しているのか

A. 会社全体は売上は順調に推移しております。薬局の出店、高齢者施設の開設などコストが増加しましたが、想定通りの利益となりました。

各事業では

- ・在宅訪問薬局事業は鹿児島県、熊本県の新たなエリアに進出し、3Q単体で4店舗出店しております。出店コスト、採用コストなどの経費がかかり、また外来処方箋枚数の減少が顕著であり、利益押し下げの状況ではありつつも在宅患者数の増加、生成AIを利用したRPAの導入などで四半期単体では過去最高益を更新しました。

- ・きらりプライム事業は、47都道府県すべてに加盟店を集めることができました。加盟店舗数も当期の目標数値を早期達成しております。一方で薬剤の仕入交渉代行が全国的な薬剤流通が減少しており低調に推移し、大型のコンサルティング契約が期ズレし、2Q比では利益が減少しております。

- ・プライマリケアホーム事業は、既存施設の入居が安定しており順調に運営しております。12月に熊本県に施設を開設し、1月末時点で入居予約を含め47名となり、順調な立ち上がりとなりました。しかし、開設によるコストは先行して発生しております。

Q. 高齢者施設建設のための資金調達の方向性はどうなるのか

A. 福岡市南区の開設は自社の資金で対応することとし、シンジケートローン契約を締結しております。今後、6棟目以降については借入による対応、オーナーを探すことの両面で検討しております。

Q. 日経新聞にて調剤業務の委託解禁記事が出ているが、来期以降の業績に影響はあるのか

A. 当社のセントラルファーマシー構想の実現可能性が高まったと考えております。法改正および施行の時期が不明ではありますが、当社事業にはプラスになると想定しております。在宅訪問薬局事業で一包化処方が多く、この法改正によりプラスの効果が発揮できるのは在宅患者を多く抱える薬局であると認識しております。さらに、当社はきらりプライム事業で2,000店舗を超える加盟店を有しており、セントラルファーマシーを上場時からイメージしている仮想ドミナントを形成でき、効率的な運営による収益率アップを加盟店と一体になり進めることができると考えております。今後、法改正の詳細が判明次第具体的な計画を実行していく予定です。

Q. 在宅薬局事業が四半期で単体で過去最高益となったが、今後の見込みはどうか

A. 第3四半期から利益が前期比を上回り始め、積極的な出店を進めております。今後はさらなる在宅患者増を目指して営業体制を強化していきます。

Q. プライマリケアホーム熊本はまさんの状況を教えてください

A. 当社の在宅薬局が進出していない地域で知名度がない状況での開設となりましたが、順調に入居者の獲得ができております。医療依存度が高く、介護度も高い方へのサービスに対する需要は大きく、今後も順調に推移していくと想定しております。

Q. プライマリケアホームひゅうが野多目の建設が発表されたが、6棟目以降の計画はどうなっているのか

A. 現在、複数地点で開設の検討をしており、確定しましたらお知らせさせていただきます。

Q. プライマリケアホームひゅうが久留米聖マリア病院駅前の開設準備は進んでいるのか

A. 施設の建設は順調に進んでおり予定通り2025年4月中旬に開設できる見込みです。

Q. 賃上げに対してどういう方針なのか

A. 今期、会社全体で6.7%の賃上げを行いました。厚生労働省発表の全体平均4.1%を大きく上回りました。会社の持続的な成長のためにも優秀な人材確保は必須と考えており、AIを利用したDX化による業務効率化と合わせて、今後も賃上げを進めていきたいと思えます。

Q. 初配の発表があったが、今後の配当政策について教えてほしい

A. 今後は、業績、財務の健全性を勘案しつつ、利益成長にあわせた株主還元施策の実施を基本方針といたします